

沼津工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	情報処理基礎
科目基礎情報					
科目番号	2018-116		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	機械工学科		対象学年	1	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	IEC、インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版、実教出版、2018。IPA、IT時代の危機管理入門情報セキュリティ四訂版、実教出版、2013。				
担当教員	三谷 祐一郎				
到達目標					
1.コンピュータやそれを利用した機器を適切なモラルと使用法の下で使用できる 2.コンピュータ社会における情報機器の利便性と利用における弊害について説明できる 3.コンピュータの構成要素や情報の表現方法の違いによる特徴を説明し、コンピュータが扱っている数値計算を行うことができる 4.オフィスツールを正しく利用できる 5.コンピュータを利用した簡単な問題を解決できる手順を指定し、処理させることができる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	コンピュータやそれを利用した機器を適切なモラルと使用法の下で使用できる		コンピュータを適切なモラルと使用法の下で使用できる		コンピュータを適切なモラルや使用法の下で使用できない
評価項目2	オフィスツールを正しく利用できる		オフィスツールのうち一部を正しく利用できる		オフィスツールを正しく利用できない
評価項目3	コンピュータを利用した簡単な問題を解決できる手順を指定し、処理させることができる		コンピュータを利用した簡単な問題を解決できる手順を指定することができる		コンピュータを利用した簡単な問題を解決できる手順を指定することができない
学科の到達目標項目との関係					
【本校学習・教育目標（本科のみ）】 1					
教育方法等					
概要	コンピュータ組み込み機器の普及により情報社会となった現在では、コンピュータの関わる世界でも実社会と同様にルールとマナーが求められる時代になってきている。特に、最近ではコンピュータ組み込み機器やネットワークを利用した際にルールやマナー、知識の欠如を原因としてトラブルに関わることが増えてきている。これらの現状を踏まえ、普段から利用する機会が多いコンピュータ利用機器に関連して情報モラルと情報セキュリティを含めた知識を広く講義し、情報社会においてこれらの機器を適正に使えるための基礎を教授することを目的とする。				
授業の進め方・方法	授業は毎回、講義から演習を行う形式を基本とする。講義中、演習中に質問がある場合は内容によらず積極的に質問を行うこと。 定期考査前には模擬試験の実施を原則とする。 通年成績における試験の配分比は次のとおりとする;前期中間 20%、前期期末 20%、後期中間 15%、学年末 15% 通年成績における演習課題の評価の配分比は次のとおりとする;前期中間期 5%、前期期末 5%、後期中間期 10%、後期期末 10%				
注意点	1.試験や課題レポート等はJABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2.授業参観される教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科担当教員へ連絡してください。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	総合情報センタ利用案内	本校のネットワーク利用の規則を理解している、Moodleへログインできる、パスワードを変更できる	
		2週	本校オンラインシステム利用案内	Blackboard、Office365にログインできる、メーラーの設定、携帯電話メール設定を行う	
		3週	電子メールの利用	メールを丁寧に書くことができる	
		4週	情報セキュリティとネット被害	インターネットやスマートフォンに対する不正行為と対策用語を理解できる	
		5週	個人情報と知的財産	個人情報と知的財産について用語や法律を理解できる	
		6週	情報の受信と発信	Web検索を利用した情報収集とその注意点を理解し、実践できる	
		7週	模擬試験	中間試験に対する模擬試験を実施しこれまでの学習内容を復習する	
		8週	試験返却/情報社会における生活	試験解答返却と解説、インターネットを使用する上での注意事項を確認する	
	2ndQ	9週	コンピュータの仕組み(1)	コンピュータの簡単な仕組み、OSとアプリケーションソフトの関係と働きを理解している	
		10週	コンピュータの仕組み(2)	整数2進数、論理積と論理和について	
		11週	コンピュータの仕組み(3)	2進数、10進数の計算ができる	
		12週	コンピュータの仕組み(4)	加算減算、負の数	
		13週	コンピュータの仕組み(5)	16進数変換、文字コード、可逆圧縮と不可逆圧縮	
		14週	コンピュータの仕組み(6)	インターネットの仕組み、用語について基本的な内容を理解できる	
		15週	模擬試験		
		16週			
後期	3rdQ	1週	オフィスソフト(1)	ワープロソフトによる文書作成の概要を説明できる	
		2週	オフィスソフト(2)	表計算ソフトによるデータの整理ができる	
		3週	オフィスソフト(3)	表計算ソフトによるデータの整理ができる	
		4週	オフィスソフト(4)	ワープロソフトによる文書へ表計算ソフトの結果を添付できる	

		5週	オフィスソフト(5)	プレゼンテーションソフトを使用できる
		6週	オフィスソフト(6)	プレゼンテーションソフトを使用できる
		7週	模擬試験	
		8週	試験返却/オフィスソフト(7)	中間試験解説/プレゼンテーションソフトを利用してプレゼンテーションを実施できる
	4thQ	9週	コンピュータを利用した問題解決(1)	コンピュータの基本的な処理について理解できる
		10週	コンピュータを利用した問題解決(2)	コンピュータの基本的な処理について理解できる
		11週	コンピュータを利用した問題解決(3)	コンピュータを利用した問題解決-アルゴリズムについて理解できる
		12週	コンピュータを利用した問題解決(4)	コンピュータを利用した問題解決-アルゴリズムについて理解できる
		13週	コンピュータを利用した問題解決(5)	コンピュータの基本的な処理を組み合わせで指定された動作をくみ上げることができる
		14週	コンピュータを利用した問題解決(6)	アルゴリズムの優劣を理解できる
		15週	模擬試験	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	到達レベル	授業週	
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権な どの法律について説明できる。	3	
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理 との関わりを説明できる。	3	
		情報リテラ シー	情報リテラ シー	情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を活用で きる。	2	
				論理演算と進数変換の仕組みを用いて基本的な演算ができる。	2	
				コンピュータのハードウェアに関する基礎的な知識を活用できる 。	2	
				情報伝達システムやインターネットの基本的な仕組みを把握して いる。	2	
				同一の問題に対し、それを解決できる複数のアルゴリズムが存在 しうることを知っている。	1	
				与えられた基本的な問題を解くための適切なアルゴリズムを構築 することができる。	1	
				任意のプログラミング言語を用いて、構築したアルゴリズムを実 装できる。	1	
				情報セキュリティの必要性および守るべき情報を認識している。	2	
				個人情報とプライバシー保護の考え方についての基本的な配慮が できる。	2	
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々 な脅威を認識している	3	
				インターネット(SNSを含む)やコンピュータの利用における様々 な脅威に対して実践すべき対策を説明できる。	3	
				専門的能力	分野別の専 門工学	機械系分野
定数と変数を説明できる。	2					
整数型、実数型、文字型などのデータ型を説明できる。	1					
演算子の種類と優先順位を理解し、適用できる。	1					
算術演算および比較演算のプログラムを作成できる。	2					
条件判断プログラムを作成できる。	2					
繰り返し処理プログラムを作成できる。	2					
分野横断的 能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に 収集することができる。	2	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情 報を選択できる。	2	
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要が あることを知っている。	2	
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について 自己責任が発生することを知っている。	3	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要で あることを知っている。	2	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発 信(プレゼンテーション)できる。	2	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集がで きる	1	
				複数の情報を整理・構造化できる。	1	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析の ために効果的な図や表を用いることができる。	1	

評価割合

	試験	演習課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0

專門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0